

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成元年6月20日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	4番 庄司二三男
5番 岩村 勝弘	6番 山崎 雅己
8番 鈴木 勝美	9番 山口 康雄
10番 鈴木 忠夫	11番 神田 守隆
12番 榎本 春光	13番 山中金治郎
14番 小宮 利夫	15番 横溝 功
16番 石井 昌治	17番 石井 謀
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
20番 福原 勤	22番 黒川 平治
23番 流山源次郎	25番 渡辺 昭夫
26番 近藤 好雄	27番 林 豊

1 欠席議員 3名

7番 生稲 隆	21番 辻田 実
28番 飯田 義男	

1 出席説明員

市長 半澤 良一	助役 小倉 澄男
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 渡辺 秀夫	民生部長 小幡 清之
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 委員長 杉村 芳枝	教育委員会 委員長 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第3号）

平成元年6月20日午前10時開議

日程第1 議案第40号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

日程第2 議案第41号 平成元年度館山市一般会計補正予算（第1号）の専決処分の承認について

日程第3 議案第42号 館山市企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

日程第4 { 議案第43号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

{ 議案第44号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

{ 議案第45号 館山都市計画事業館山駅西口地区土地区画整理事業施行条例の一部を改正する条例の制定について

日程第5 { 議案第46号 平成元年度館山市一般会計補正予算（第2号）

{ 議案第47号 平成元年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

{ 議案第48号 平成元年度館山市老人保健特別会計補正予算（第1号）

日程第6 { 請願第18号 消費税廃止決議と公共料金の値上げ反対を求める請願書

{ 請願第19号 平砂浦海水浴場開設を求める請願書

開 議 午前10時03分

◎副議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第2回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長（福原 勤君） 日程第1、議案第40号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

◎副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎副議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案を承認することに決しました。

議案の上程

◎副議長（福原 勤君） 日程第2、議案第41号平成元年度館山市一般会計補正予算（第1号）の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

◎副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎副議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

◎副議長（福原 勤君） 日程第3、議案第42号館山市企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

◎副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎副議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

◎副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案を承認する

ことに決しました。

議案の上程

◎副議長（福原 勤君） 日程第4、議案第43号乃至議案第45号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の43号でありますけれども、私の質問は議案の説明資料に沿って行いたいと思います。

23ページ、平成元年度本算定時の調定見込額という中の2で、昭和63年度館山市国民健康保険特別会計歳計剰余金の処理という説明があります。63年度の決算見込みで2億 5,870万という剰余金が出るものと見込まれているわけですが、この剰余金についてはそれだけ医療費の負担が少なかったことなどが、いろいろ原因はあろうかと思えます。結果的にこの2億 5,800万円余の負担というのは、本来市民の負担として結果的に見ますと不用だったということに変わりはないわけであります。これは1世帯当たり約2万5,000円ほど、本来国保税の負担は少なくてよかったというふうにも見ることができるわけです。このうち1億 1,000万円については今年度の減税財源として既に織り込み済みでありますけれども、その中で6,400万円、これが財政調整基金に積み立てるということで、今年度の減税財源として措置しないという形になっているわけですが、既に大変高いということでこれまでたびたび問題になってきました国保税であります。市民の立場として、1,000円でも安くしてもらいたいというのが基本的な問題としてあろうかと思うわけであります。そうした市民の率直な気持ち、声を踏まえた中で、あえて6,400万円を財政調整基金ということで減税財源に充てなかったというこ

とで、この辺の理由について御説明をいただきたいと思うわけであります。

次に、17ページに戻りますけども — 議案説明資料17ページの一番最後の方になりますけども、条例の改正として附則第3項を創設するということがあるわけであります。この附則の第3項というものは、公的年金等にかかわる所得についてはこれまで給与所得ということでこれはみなされて所得の計算がされてきたものが、今回からは雑所得ということになって、これに伴う負担の調整を図ろうと、こういうことだろうと思うのでありますけども、こうした措置の結果、実際これまでの給与所得から雑所得に年金収入の所得のとらえ方が違ったということの結果、国保税が大幅にふえるというようなことになる、これはいろいろ問題があらうかと思えます。したがって、こうした負担調整措置がされると思うのでありますけれども、こうした結果の成り行きとして、具体的に御説明をいただきたいわけですが、年金収入で約150万円ぐらいの年収の方の場合には結果的にどうなるのか、給与所得とみなしたときと今度の雑所得ということでみなした場合との間でどれだけの違いがあるのかないのか。

また200万円、さらに250万円、300万円と、こうしたそれぞれの年金収入に応じて単純に見た場合に、この負担調整の結果がどういうことになるのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

また、この対象が65歳以上というふうにされているわけでありますけども、年金の収入それ自体は60歳以上の方も、65歳未満60歳以上という方でも年金の収入ということは大変多いかと思うんですが、こういう人にとってはやはりどのようになるのか。負担調整がその方は対象にならないようでありますけれども、結果的に非常に増税ということになりはしないか、その辺について御説明をいただきたいと思えます。

次に、議案の第44号であります。館山市民センター条例の一部を改正する条例についてであります。25ページを見ていただきたいんですが、新たに購入をいたしましたスタインウェイ社のグランドフルコンサートピアノ、この使用料を1万円と決めようとするものでありますけれども、この1万円とした理由はということによるものですか、これについての御説明をいただき

たいと思うのであります。

また、従来市民センターは大変音響が悪いということでたびたび指摘もされてきておるわけでありましてけれども、こうしたコンサートというようなことで、非常に高価なピアノも購入するということで、ピアノの愛好家、音楽の愛好家にとっては大変喜ばしいことだろうと、そのことは思うんでありますけれども、しかしこの入れ物といいますか、これが大変音響の面で問題があるということはたびたび指摘されていて、ちょっとそこらでのバランスという点から考えるとどうしたものかなという点があるわけでありまして。その点で、こうした音響の改善についてどのように考えておるのか、お聞かせをいただきたいと思うんであります。

次に、26ページになりますが、議案の第45号館山都市計画事業館山駅西口地区土地区画整理事業施行条例の一部を改正する条例についてであります。事務所を北条2526番地の5に移転をしようと、これは現在市役所にあるものをそちらに移転をしようとするものであります。まずこの移転先の場所について具体的に御説明をいただきたいと思います。それと、この事務所を移転する理由、そして移転した事務所の役割、どのような職員の配置になるのか、この事務所の役割、機能、こうした問題について御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎副議長（福原 勤君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第43号に関する御質問でございますが、御案内のように国民健康保険における医療費は年々増高しているところでございますが、昭和63年度の医療費につきましては、決算見込みからは前年度を下回るといった極めて異例な状態でございました。平成元年度も同様となるとは考えられないわけでございます。したがって、昭和63年度決算で見込まれる剰余金から 5,276万 5,000円を保険税の軽減に充て、6,400万円は本年度以降の — 平成元年度以降の医療費の動向を踏まえた国民健康保険事業の円滑な運営のために、

基金として積み立ててまいりたいと考えているわけでございます。

議案第43号の御質問でございますが、公的年金等の所得が給与所得から雑所得に変更されたことに伴う影響についての御質問でございますが、まず65歳以上の公的年金受給者につきましては、年金収入 220万 5,000円以下であれば前年度と同額となりますが、250万円では 6,500円、300万円では 8,400円それぞれ増額となります。次に、65歳未満の受給者につきましては、年金収入が 230万円の前年度と同額となりますが、230万円未満の場合は 400円から 4,600円の減額、230万円を超える場合は 400円から 3,500円の増額となります。

次に議案第44号、料金を1万円にした理由でございますが、県内の公立会館でスタインウェイとヤマハの両機種を所有している会館は10館ございますが、それらの館の使用料及び近県の公的会館の使用料を参考にいたしました。さらにまた、ほとんどの会館がスタインウェイの使用料をヤマハの2倍以上としておりまして、本市の場合ヤマハが 5,000円でございますので、1万円としたものでございます。

次に第2点、市民センターの音響についてでございますが、当施設は体育館兼用ホールとして建築されたものでございますので、音響につきましては極めて不十分でございました。これを改善するために、昭和52年度に 164万 5,000円で舞台音響反射板を設置、また昭和56年度には 2,240万円でステージスピーカー等音響設備の全面改修を行ってまいりましたが、音楽等の演奏会場といたしましてはまだ十分とは言えないものと理解をいたしております。音楽演奏用の文化会館の設置が、建設が急務だと考えております。

次に議案第45号、事務所の移転についてでございますが、館山駅周辺市街地整備事業につきましては、地域住民等とのより一層の合意形成を図りながら推進する必要があることから、新たに事務所を安房西高校正門前の北条2526番地の5の土地に建設し、事業推進のための主な機能を市役所から当該事務所に移転させようとするものでございます。事務所の主な施設内容等といたしましては、職員事務室、製図室、会議室、物置等延べ面積約 200平方メートルの軽量鉄骨プレハブづくりパネル式2階建てで、一部平家建てで

ございます。また、配置いたします職員は、現在の都市開発課職員11人全員を予定しております。

答弁を終わります。

◎副議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 国保税の減税財源に充てなかった理由の問題についてでありますけれども、決算剰余金が2億 5,800万という形で見込まれてというんですけれども、どうも今のお話を伺いますと、もう結論は先に出ていて、とにかく減税はしないと。大体前年度と税率を同じに据えるという前提のもとに、なおかつ余ったお金があったからそれを財政調整基金に入れたんではないかなと、こういうふうに今の御答弁からは何か感じられるんですけれども、やはりちょっとそれはどうかなと。

将来の財源として次年度以降というようなことではございましたけれども、その辺どうなのでしょう。実際本当に、まず税率の値上げはしないということもあるんですけれども、値下げはしないと、逆に。据え置くと、こういうことから出発して、結果的に 6,400万円が余っちゃったんで、これはじゃあ財調だと、これが実際の姿として出てきたもんじゃないんですか。そうではないというのならば、この財政調整基金、一般論として将来に向けてというようなお話ですと、これまでは財調をとにかく取り崩してでも減税に充てようということでは必死にやってきた経過からいたしますと、何か今までの流れからすると、今回改めて財調へ入れるというのも何か納得がいかないんです。その辺でもう少し、私の言っていることが違うのかどうか、違うんだとしたらば財調に向けて実際に幾ら必要だと基本的に考えておられるのか、そういったことも含めまして御答弁いただきたいと思うんです。

それから、公的年金の問題については、そうすると実際にはその年収に応じてこの結果増税になるという人もいると、逆に一部安くなるという、結果的にそういう方もおるという御説明で、大体金額的にもそれはそれでわかりました。そうすると、実際に大ざっぱな数字で結構でありますけれども、館山市の年金の受給者の収入というのは恐らく把握されていると思いますので、増税になるというのは結果的にはどのくらいで、実際減税になるというのは

どれくらいだということになりましょうか。

それから、グランドピアノの関係ですけれども、普通は入れ物をつくってから中の物をというふうな、普通はそう考えるんですけど、物を買っちゃって、それにふさわしい今度は入れ物をするということで、市長の御答弁で文化ホールが急務だというお話がございました。その文化ホール、私も必要だという点についてはそう思います。実際この文化ホールということについての住民の声も私自身も聞いております。そこで、文化ホールの建設の見込みについてはこれまでいろんなことで論議がされてきましたけれども、現時点どのように考えておりますか。半島振興法のもとで、この地域に文化ホールというようなことで今までいろいろなこともありましたけれども、この際この辺についてどのような進捗なり見通しなりを持っておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、都市計画事業の関係でありますけれども、都市開発課の職員11名が全員がそちらに行くということで、大体この事務所の役割や機能についてわかりましたので、これについては質問を打ち切ります。

◎副議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 国民健康保険会計の財調の関係でございますが、かつては2億 4,500万円の積立金を持っておったわけでございますけれども、御案内のように国保税の — 医療費の伸びにつれまして税額を、税金を抑えるためにそれぞれ取り崩しをやってきたと。さらに、63年度からは一般会計からも繰り入れをして、税金を何とか抑えようということでやってきたわけでございますけれども、本年度はたまたま剰余金が、医療費の伸びが初めて前年を下回るというようなことで、こういう結果になったわけでございますが、厚生省の指導あたりにも御承知のように、過去3年間の平均の医療費の5%程度は — 以上は積立金として持っていることが望ましいというような指導もございます。そうしますと、大体館山市の場合に20億でございますので、5%というと1億円以上の積立金がこれは持っていることが国保を運営していく上で非常に安心して運営していけるということになろうかと思えます。そういうわけで、今回、約 200万円しか現在ありませんので、そこへ

6,400万円を積み立てようということでございます。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

◎副議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 年金の控除によって減額になるのが1,511万7,000円でございます。総体的に大体65歳以上の年金受給者が3,100人程度おりますが、そのうち増額になるというのは350万程度でございます。人数にいたしますと488人ということでございます。それで、65歳未満については減税総額が116万5,000円ございまして、増額対象が61万円でございます。差し引きますと減税が55万5,000円でございます。

以上でございます。

◎副議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 文化ホールの建設の現状と見通しを具体的に示せという御質問でございますが、文化ホールを建設するというようなことは南房総地域半島振興計画に掲げられておりますが、半島振興地域のどこの市町村に建設をするということはまだ決まっていなわけでございます。本市は半島振興計画策定時から要望をするとともに、誘致の陳情を繰り返しておるわけでございますが、現在は平成3年度にスタートいたします県の5カ年計画の中で本市への建設を明確にしてほしいと要望をしているところでございます。文化団体を初め多くの市民の要望もございまして、62年3月には市議会で文化ホール建設促進の陳情が採択されておりますし、リゾート地には文化が必要でございます。これからも各団体、市民の皆さんとともに県に対して積極的に働きかけをしていきたいと、このように考えているわけでございます。

以上でございます。

◎副議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうすると、国民健康保険の関係ですけれども、1億円程度はとりたいんだというお考えを示されたわけですが、すると6,400万円というんでは大変おぼつかないと、これでもまだ少ないんだというお話であります。そうすると、引き続き今後もこの1億円という問題に

については、国保税の財調への組み入れというのを今後とも考えていくということになるのか。それとの兼ね合いで国保税の税の軽減。そうすると優先順位としては、この1億円を超えるような事態になれば、それはまず減税財源としてどんどんやりますよというふうになるのか、その辺がちょっと、この辺の位置づけをはっきりさせておいてほしいんです。

まず、前年度の繰越金について出た場合、どういうふう to これをするかと。一つは減税財源として、まず第1に税の増税をストップするということです。今市がとられているのは増税をストップすると、税率の値上げを原則的にストップをすると、これが最優先だと、その次は財調への積み立てだと、これは1億円どまりだと、それを超えてなおかつある場合には税の軽減、むしろ減税だというふうに市では順序を立ててこの問題について考えておるのですか、その辺の考え方をはっきりさせてほしいんです。

率直に言って、市民の今の声というのは非常に高いということですから、積み立てする余裕があるならばまず減税というこの市民の気持ちとの兼ね合い、その辺非常にポイントになろうかと思しますので、その辺の考え方をはっきりさせてほしいと思います。

以上です。

◎副議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 1億円になったらという場合の想定でございますが、そうなることを非常に期待するわけでございますけれども、かつては2億4,500万あったという経過もございます。ですから、その線をどこで引くかということも今後の問題になろうかと思いたすけれども、おっしゃるように今後とも剰余金が出た場合には税の据え置きといいますか、軽減に充てて、余りが出れば積立金に積み立てていくと。それが一定線、1億を超え、あるまたその上の額をどこで引くかが問題とさっき申し上げましたけれども、その線を超えた場合に直ちに減税、税額、税率を減にするか、あるいはこれは独立採算ということから、一般会計からの繰り入れ、それをまたもとへ戻すかということはその時点になっての議論になろうかと思いたす。現時点ではまだその辺は今後の課題ということでもって御理解いただきたいと思いたす

す。

◎副議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 今のお考えですと、一般会計からの繰り入れやめちゃうと、とんでもない話だということだけ言って、おしまいです。

◎副議長（福原 勤君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第43号乃至議案第45号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎副議長（福原 勤君） 日程第5、議案第46号乃至議案第48号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第46号、89年度の館山市一般会計補正予算（第2号）、これについてお尋ねをいたします。

私の質問は、この説明資料によって進めさせていただきます。29ページをお開きください。いわゆるリゾート法によって地価高騰に対して監視区域に指定されたと、この7月から市がその事務の委任を受けようとするものでありますけれども、この監視区域というのは具体的にどこになりますか。次に、この委任を受けようとする事務の内容について、どんなことをするものであ

りましょうか。

さらに、不動産鑑定委託は10件ということで予定をされているようですが、この10件という数はどういう根拠で出されたものなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、28ページに戻ります。補正額ということで繰越金に 3,568万 9,000円、これが前年度繰越金から財源として充てられたわけであります。これに関連してお尋ねをしようとするものでありますが、既に63年度の決算の見込みが出ていることと思います。この決算見込みについて御説明をいただきたいと思うのであります。

それでは、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（福原 勤君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 議案第46号の御質問でございますが、監視区域の対象地域は、総合保養地域整備法の地域指定に合わせ、本市については本年3月1日より重点整備地区内 2,690ヘクタールについて指定されました。この監視区域内の土地取引のうち、1,000平方メートル以上 5,000平方メートル未満の届け出については、7月1日より市が県から事務委任を受け、主として価格の審査を行うこととなり、適正な地価の算定に当たり、事例の集積が少ないことから、不動産鑑定を行う必要が生じたものであります。

なお、不動産鑑定委託の件数につきましては、本年3月1日指定以後現在までの届け出件数及びこの届け出件数に対する不動産鑑定委託件数の割合から、7月以降30件の届け出が見込まれ、その3分の1程度が不動産鑑定を要するものとして積算したものでございます。

次に、議案第46号についての御質問でございますが、まず昭和63年度一般会計の決算見込みにつきましては、去る5月31日出納閉鎖をいたしました結果、歳入総額で 111億 524万円、歳出総額で 103億 4,364万円となり、このうち繰越明許費として道路新設改良費や都市計画街路事業費等にかかわる経費 6,149万円を繰り越しておりますので、実質収支額は7億11万円となる見込みでございます。この実質収支額につきましては、本市の予算規模から考

えますと、通常2億円から3億 3,000万程度が見込まれるところでございます。今回これを上回った主な要因といたしましては、歳入の市税で1億 1,200万円、自動車取得税交付金で 4,000万円、地方交付税で 8,800万円、収益事業収入 ― 競輪でございますが、 7,200万円がそれぞれ増となっております。また、歳出においては例年の執行残のほか、主な不用額として老人保健特別会計繰出金で 4,000万円、館山駅周辺整備事業にかかわる用地購入等で 7,400万円となっております。

以上、答弁を終わります。

◎副議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 地価の監視区域の関係でありますけども、リゾート法の重点整備地区内を対象として地価の監視を行っていくと、こういうことであります。これはリゾート法の関係で地価が高くなってしまったんでは、結果的に低廉な安いリゾート施設の建設が難しくなって、結果的にはそのリゾート施設の利用料金の高騰という形で結局ははね返ってくるということだろうというふうに、それはそれとして理解をするんでありますけれども、いま一つは、この地価の抑制措置というのがいわゆる重点整備地区内だけだということになるわけで、そうするとリゾート施設の設置ということで企業は土地を安い値段で購入することができるということになるわけです。そして、この監視が続けられている限りは、地価の抑制というものが効くということになると思うんであります。しかしその監視区域から外れている周辺の地域というのは当然地価の高騰になるのではないかと。そういう周辺地域への ― そうするとぼっかりその地域だけが地価の高騰を免れているということになるんですけれども、この監視をいつまで続けるのか。その地価の監視措置が半永久的に続くことでもないでしょうから、それがなくなった時点では一気に急騰すると、こういうような問題は出てきはいないか。

そうすると、結果的には安く土地を購入した企業がその時点で土地を処分すればべらぼうなもうけという形になるわけで、その辺ではこの監視という問題については、一つはこれが対象地域以外の問題はどのようなふうになるのかということ、これを全く野放しだというふうに理解していいのか。それか

ら、この監視の措置というのはいつまで続けるのか。時間、期限、これはどういうふうになっているのか、その辺についての御説明をいただきたいと思うんです。

それと、昨日のいろんな論議の中でもあったんですけども、ゴルフ場がこのリゾート施設の中心だということをたびたび指摘もしてきて、大変な広大な面積も占有するということでもありますから、この地価抑制は非常に決定的に重要な役割を持つだろうと思うんです。

きのうも繰り返しお話をしたんですけども、ゴルフ場というものについては、いろいろ調べてみますと、いわゆるリゾート施設としてのゴルフ場、リゾートゴルフ場というのは成功している例は日本ではほとんどないようであります。基本的にはゴルフ場というのは長期滞在型の施設ではない、これは日帰り客が中心だ、日帰りの施設だと。現にゴルフ場は大体時間距離1時間以内の圏内、ここでは非常に高い会員券の価格でも売れる。しかし、2時間乃至それ以上というような時間距離の施設では値段も高くはないし、なかなかゴルフ場としてもうまみがないんだ、こういうような状況だそうであります。とすると、このゴルフ場というのはあくまでも日帰りという、こういう客が中心だということになると思うんです。

実際に、ゴルフ場のこのリゾートの施設の開設される時期、これが東京湾横断道路の完成を見込んで実際には今検討されているだろうと思うんです。東京湾横断道路が完成する時期になりますと、富津まで東関道が来ると。富津から館山まであとどのくらい時間がかかるかまだわかりませんが、いずれそれが完成するとすれば館山木更津間がわずか30分だと。木更津から渡って川崎から15分だとかいうことで、1時間足らずで都心と結ばれるということになれば、ここはまさに日帰りゴルフ圏ですね。こういうふうになると思うんです。現在日帰りゴルフ圏で、四街道ですが、1億円で何だか会員券が売れたとか売れないとかという話があるようでもありますけども、そういうところにこの館山が10年先に立地するということになるんだと思うんです。こうなると、本当にリゾートとしてのこの地域の開発というのではなくして、日帰りゴルフ圏としてこの館山が位置づけられていくと、企業の採算もその

ことなくしてはこれはあり得ないということになるのではないかなという懸念を持つんです。

これはそういう点から、市ではきのうの岩村先生の質問の中でも企業の採算性の問題については企業機密ということで公表されなかった、またされないというお話でありましたけれども、一番聞きたいところが実はそこなわけです。公表されないようでありますけれども、結果的にはこのリゾートというものとは縁の遠い日帰りゴルフ圏と、こういう位置づけになりはしないかと思うんですが、それでもいいんだというふうに考え方もあろうかと思うんですけれども、だったらリゾートなんていう言葉は使わない方がいいということになるんですけども、その辺はどのように考えておるのか、この問題とあわせてお聞かせいただきたい。

それから、前年度決算の見込みで約7億円という剰余金が出るようであります。これまでもたびたび剰余金を出すことはいろいろ問題があると、こんだけ財源があるならもっと住民のための施策できたはずだと。何かという予算がないということが、住民のいろいろな要望を実現する上で、二言目には予算がないと言われるという、住民の受けとめ方は率直に言ってそういうところがあるわけです。ですから、そういうところからすると、7億円もの剰余金が出たということについては、やはり大きな政治的な問題だと思うんです。これは単に端数の処理とか云々という問題ではなくして、やはりこれまでもたびたび言ってきたんですけれども、こういう大幅な決算剰余金、これが特別な事情で、やむを得ない事情で出てきたんだということであるならば、住民もそれなりの納得はするところであります。私もそうであります。

しかし、今の御説明からすると、市の歳入で市民税等が好調であったとか、あるいは地方交付税が多かったとか、こういうことは全く予想もできなかったことで、やむを得なかったことだというふうにはとても理解できないんです。やはりもっと早い時期からこの決算見込みについて、かなりのやはり剰余金が出そうだと、したがって市民に対して来年やろうと思っていた話はじゃことしやりましょうということがあってもいいわけです。そういうことで市民の声に積極的に応えられなかったのかという点です。これは細かい話

は結構でありますけども、その辺の政治姿勢といいますか、その辺の考え方といいますか、その辺についての考えをお聞かせいただきたいと思います。

◎副議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まず、第1点の監視区域の期間の問題でございますが、平成元年 — 本年の3月31日から平成4年の3月31日までの3年1カ月でございます。

それで、なお2点目といたしまして、対象地区外は野放しなのかという御質問でございますが、これにつきましては、極度の地価高騰等が招かれるという危険性といいますか、懸念がある、あるいはそういうような事態が生じたというような場合には、県の方としては抑制措置を講じたいというようなことを現在検討しているところでございます。

それから、ゴルフ場の関係については、これからますます交通関係がよくなりますと日帰り客がふえるんじゃないかというような御質問でございますが、これにつきましては昨日もお答え申し上げてあるんですが、これからいわゆるリゾート — 国民の休養がもっとふえるというようなことで、リゾートも活発化してくるんじゃないかというようなことから、今までみたいに来てゴルフをやってすぐお帰りになるというようなことではなくて、もう少しゆったりとした日程等を持ってくるのではないかと、またそれを期待するものでございます。そして、リゾートの施設としてゴルフ場もスポーツの一施設として考えているということでございます。

以上です。

◎副議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 先ほど市長から御答弁申し上げましたように、実質収支7億円の剰余金ございましたが、そのうち平成元年度予算に3億円は計上してございますし、当然確かに市税が1億1,200万とか、それから自動車交付税、それから地方交付税というものでかなりの収入が見積もれないものがあったということは事実でございます。それで、事業については、御存じと思いますが、計画的に執行いたしておりますので、支障はなかったと思っております。

以上でございます。

◎副議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） ゴルフ場のリゾートの関係ですけれども、都心から — 東京から見た場合に1時間の時間距離というのは湘南です。湘南と同じ距離です、この館山は。そういう地域になると。湘南に行きますと、みんな日帰りです。逗子で民宿が3軒あるとか4軒あるとか、そのくらいですから、全部日帰りだとまず思って間違いないです。一生懸命努力するという、どうやったらここに泊まって長期滞在にするかというのは、大変な苦勞をしないと長期滞在型のリゾートにするのは大変です。ですから、ゴルフというのはまさに日帰りのスポーツなんですね、現在のところは。ですから、ゴルフそのものがやはり長期滞在型のものにしていくという、この辺のやっぱり努力や苦勞というのはこれは大変なことだと思うんです。そういうことで、そういうふうになるだろうというふうに単純な見通しでは言えないんじゃないか。

それから、従来これまで2時間時間距離で都心からかかっていた地域、これが上越新幹線等ができて1時間足らずということに、交通が革命的に短縮されるということでどういう変化が起きたかということでも、やはり同じようなことはここでも考えなきゃいけないと思いますけれども、苗場のスキー場、ここもやはり大企業がすごく収益を上げていったけれども、地元の産業、地元の旅館業、こういったものは結果的には駆逐されてしまうと、こういう形になったんです。これはもう何年もしない間にそういう変化が出てきたわけですから、これは大変なやっぱり地元の産業との関係という点から見ても非常に大きな問題を持っておると思います。

館山の場合には、恐らくこれまで2時間乃至2時間半ぐらいの時間距離のところが1時間ぐらいの時間距離になると、同じようなやっぱり変化は当然考えなきゃいけないでしょうし、それからそういうもとでは、果たして長期滞在型という問題については、今問題なのは、お客を将来どう呼ぶかという発想を今まで繰り返しやってきましたけれども、今どう呼ぶかではなくして、お客がもう目と鼻の先になりますから、来るということはいいいんですよ。し

かし、それをどう滞在させてリゾートとしてやっていくかということを考えないと、やっぱり発想違うと思うんです。これまでの発想の仕方では考えると、やはり大変な目に遭うんじゃないかと思うんです。そういうことから、将来皆さんの生活に余裕ができて、ゴルフ場に来て、お金もたくさんあるから家族連れでゴルフもやったりして、長期滞在型になるというふうに素朴に考えられているのがどうも納得ができないんです。

やはり企業がその辺をどういうふうに踏んでいるのか。この計画は企業機密ということで、きのうのお話では公開されないということでありましたけれども、何とかなんないもんですか。それが見えないと、本当にこの問題については企業ペースで進んでしまうと、結果的には苗場の二の舞ということで地元が泣くということになりはしないかという、こういう危機感を感じるわけです。企業の採算見通し等についての資料については公表できないと、あくまでもそういうお考えなのかどうかです。それで、地価の抑制ということがその中でも大変重要な問題、関連があらうかと思いますので、お聞かせをいただきたいと思います。

◎副議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ゴルフ場が — 何回もお話し申し上げますが、リゾートの一施設として考えておる、つまりいろいろなスポーツ施設あるいは文化、教養の施設、そういったものの複合施設のうちの一つだというようなことで、無論企業側もその採算面を考えているわけでございます。企業も企業は企業なりにいろいろ採算ベースを考えているわけでございますが、それにどうしたらいいかということで、企業はそれなりにやはり真剣にお客の誘導、誘致、そういったものを無論考えての進出であるというように私どもは理解しております。

なお、その採算性について公表できないかということでございますが、これらにつきましてはきのうお答え申し上げたとおりでございます。

以上です。

◎副議長（福原 勤君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑あり

ませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第46号乃至議案第48号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎副議長（福原 勤君） 日程第6、請願第18号及び請願第19号、各請願を一括して議題といたします。

委員会付託

◎副議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各請願は、6月13日議会運営協議会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

延 会 午前11時00分

◎副議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明21日から25日まで委員会の議案審査のため休会、次会は6月26日午前10時開会といたします。その議事は、議案第43号乃至議案第48号等に係る委員会での審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは6月26日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第40号乃至議案第48号

1 請願第18号、請願第19号